

あなたに贈る健康へのメッセージ —— 知ってください病院のこと、身体のこと

2017
第23巻 第1号
夏

医科大どおり

CONTENTS

- 病院中央棟オープン!
- 認知症センター紹介
- 病棟紹介 (新館5階西病棟)
- スペシャリスト紹介
- お知らせ
- 研修医・指導医紹介
- はじめまして
- 私の好きな風景
- 医科大Q&A

医科大どおり

2017年 季刊誌 第23巻 第1号 発行/金沢医科大学病院

編集/金沢医科大学病院二ニュー入編集委員会



内灘町上空から見た金沢医科大学病院

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として 次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

はじめまして!!

今回の妊娠は3年ぶりでした。2人目を授かれた時は喜びでいっぱいでした。2人目のマタニティライフはあっという間、と感じていたのに、妊娠8か月の時に羊水過多と診断され、長期の検査入院となりました。上の子と離れて暮らさなくてはならなくなり、赤ちゃんの事も心配で、辛く不安な日々を過ごしました。出産まで不安はありましたが、先生や看護師さんに支えられ、無事出産することが出来ました。出産後は後陣痛や帝王切開の傷の痛み、また赤ちゃんがおっぱいを飲んでくれず、何度もくじけそうになりましたが、話を聞いて丁寧に対応していただき、助産師さんがおっぱいの管理をしてくださり、とても心強かったです。赤ちゃんは私たちの宝物、大切に育てていきたいと思ひます。



北畠さま

- おとうさん 翔さま
- おかあさん 友佳さま
- 赤ちゃん 諒(りょう)くん
平成29年6月13日生
3,510g 男の子

私の好きな風景

美しく咲き誇るバラ群の一輪にワイドレンズを使って出来る限り接近して撮影し、美しいバラの形を強調した。



撮影:出版メディア課 中谷 渉

- 撮影場所 金沢南総合運動公園バラ園

お答えします! 医科大Q&A

Q 内視鏡検査でお化粧品やマニキュアをしてはいけない理由を教えてください。その他にもダメなものがありますか?

A 内視鏡検査中は、血液中に溶け込んでいる酸素量を測定する装置を指につけます。マニキュアを塗ると測定ができないため、当日は控えて下さい。また、顔色も大事な身体所見であるためお化粧品も控えて下さい。その他の注意点として、止血処置に電気機器を使うためネックレス・ピアス等の金属を身に着けないことや、前日夜9時以降は食事を取らないことなどが挙げられます。 (記:消化器内視鏡科)

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への“説明と同意”を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

- 当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。
- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
 - 病状や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
 - 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
 - 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン(他の医療機関の医師の意見)を求めることができます。
 - 診療記録の開示を求めることができます。
 - プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
 - 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

- 当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。
- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
 - 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
 - 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
 - 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
 - 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

病院中央棟オープン！

新しく病院の正面エントランスとなる病院中央棟が2017年5月に完成し、7月18日(火)にオープンします。

この病院中央棟は地下2階、地上4階建てで正面は全面ガラス張り、1階から3階にかけて吹き抜けのエントランスホールがあり、快適な採光や眺望が確保され、広々としたゆとりの空間となっています。

正面玄関には利便性の確保を図るため、大型バスも進入可能な大型キャノピーを設けました。1階に入ると中央にメインストリートがあり、その左側には中央受付や会計窓口、右側にはオープンカフェや売店、花屋が配置され、開放された空間であるとともに、医療ガス設備等が配備されるなど大災害時にも対応できるようになっています。また、2階には集学的医療部、認知症センター等の外来部門、3階にはリハビリテーションセンターが設置され、河北潟や白山、立山連峰を見渡しながら気持ちよくリハビリテーションを受けることができます。4階には各種セミナーや学会、公開講座等に幅広く利用できる収容人員551名の北辰講堂が設置され、ご利用される皆さまの期待に応えていきます。



病院中央棟



1階エントランスホール



正面玄関キャノピー



北辰講堂

フロア案内

フロア階	配置部署
4階	北辰講堂 病院長室 看護部 病院事務部 大会議室 小会議室
3階	リハビリテーションセンター 医療技術部 北陸大学セミナー室 職員ラウンジ 中会議室
2階	1ブロック外来 認知症センター 集学的医療部・患者サロン 臨床試験治験センター
1階	総合案内 総合受付・会計・お薬 医療安全部 医事課 地域医療連携部 入退院・予約センター 家族待機室 オープンカフェ 売店 花屋 郵便局
B1階	薬剤部 栄養サポートチーム室 倉庫
B2階	倉庫



◆金沢医科大学病院からのお知らせ◆

工事期間中は大変ご迷惑をおかけしました。この度、「病院中央棟」の完成に伴い、病院正面玄関の位置が変わります。また、棟名も変わりますのでご注意ください。

病院長

(記：病院管理課)

お知らせ
◆7月15日(土) 12:00～14:00
病院中央棟内覧会(ご自由に見学できます)
◆7月18日(火) 正面玄関オープン

◆病院正面玄関の位置変更に伴い、バス・タクシー乗り場が変わります。

認知症センター紹介

暮らしと気持ちに寄り添う医療

認知症センター新設

日本は既に超高齢社会に突入し、2025年には認知症を患う方は全国で700万人を超えるとも言われています。また、認知症の予備軍と言われている軽度認知障害(MCI)の状態の方を含めると1,000万人を超えるとの推計もあります。もはや認知症は他人ごとでなく、人生の最終章に必ず訪れる自分ごととして考えなければならない時代となりました。

金沢医科大学病院では、新たに建設した病院中央棟2階に「認知症センター」を新設しました。さまざまな専門家を含むチームで、認知症患者さんやそのご家族が安心して自分らしく暮らし続けられることを目標に、外来や入院患者さんへの支援に取り組んで参ります。

主な業務内容・特徴

■専門医療機関としての取り組み

多職種の専任スタッフ(医師、看護師、臨床心理士、リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカー等)が連携し、「もの忘れ外来」の診療を行っています。また、認知症予防教室の開催、MCIスクリーニング検査(※自費診療)の導入など、予防への取り組みに力を入れています。



認知症予防教室の様子

■地域連携の推進

地域医療機関、福祉施設に向け、認知症に関する勉強会を開催するなどネットワークづくりを推進しています。

■認知症になっても安心して暮らせる町づくり

市民公開講座や研修会の開催、地元企業と協働し認知症予防の啓発を目的とした取り組みを行っています。認知症に関する情報発信を行い、認知症になっても安心して暮らせる町づくりを目指しています。

■認知症予防教室

「こことからだの元気教室」は、認知機能低下の予防を目的に、頭や体を使った様々な脳トレーニングを実施します。また、認知症予防に役立つ知識についても学びます。(1コース全8回、要申し込み)8月中旬より後期日程の申し込みを開始予定です。

「食」を通じて認知症への社会の関心を高める取り組み

認知機能低下の抑制に効果のある食材をふんだんに使用したお弁当「美脳彩」を芝寿し(金沢市)と協同開発致しました。

◆販売場所: 芝寿し全店、金沢医科大学病院地下売店でも発売中!

◆価格: 税込864円 ◆エネルギー: 671kcal ◆食塩相当量: 1.91g



(記：認知症センター センター長 森本 茂人)

病棟紹介 (新館5階西病棟)

新館5階西病棟は、血液・リウマチ膠原病科26床、泌尿器科16床、腫瘍内科3床、共有1床計46床の内科・外科の混合病棟です。

手術は年間約250件実施しており、平成27年5月から最先端技術の手術支援ロボット『ダビンチ』が導入され、ロボット支援下前立腺全摘除術は50例を超えました。

治療は手術のほかに化学療法や放射線療法、輸血療法を行っており、無菌室を備えています。リハビリテーションは、機能回復のためだけでなく、がん患者さんの生活の質低下を予防する目的として、がんリハビリテーションを積極的に実施しています。

看護師30名と看護補助員3名で協力し、看護部理念のもと心かようふれあいの看護を実践しています。また、患者さんが安全・安楽に療養生活が送れるよう、医師・薬剤師・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・栄養士・ソーシャルワーカー等の多職種で連携してチーム医療を行っています。私たちが特に大切にしていることは、患者さんご家族の要望に沿った意思決定支援・退院支援です。そのために患者さんご家族にカンファレンスにご参加いただいております。



病棟スタッフ

専門・認定看護師の紹介

がん専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師が中心となり、安全で質の高い看護を提供しています。

がん看護専門看護師



上埜 千春

緩和ケア認定看護師



辻野 麻里子

がん化学療法看護認定看護師



高柳 真美

リハビリの様子

ちらし寿司を作りました。



※患者さんの同意を得て撮影しています。

(記：新館5階西病棟 師長 下野 広美)

スペシャリスト紹介

臨床工学技士

臨床工学技士とは？

近年、医療技術・医療機器は目覚しく日々進歩し、高度化・複雑化しています。そのため医学的・工学的な知識を合わせ持つ専門職が必要となり臨床工学技士が誕生しました。一般的に院内では「CE(Clinical Engineer)」または「ME(Medical Engineer)」と呼ばれています。当院においては、手術室担当(3名)、カテーテル室担当(3名)、透析室担当(2名)、医療機器管理担当(7名)と各分野で専門業務を担い運用を行っています。

主な仕事内容(臨床工学技士の代表的な業務)

■手術室での業務

人工心肺装置やナビゲーション装置および自己血回収装置の操作や、ダビンチ手術の機器の準備など機器管理を行っています。医師や看護師および各種の医療技術者とチームを組んで、医療機器が何時でも安心して使用できるように保守・点検を行い安全性確保と有効性維持に貢献しています。

■カテーテル室での業務

心臓カテーテル検査は心臓病の診断をするための検査方法であり、手術の適応、術式を決定する重要な検査です。また診断された病変部に対する治療も行っています。臨床工学技士は検査や治療に携わり、一連のコンピュータを操作・記録し、また室内にある各種医療機器装置を取り扱います。緊急時には補助循環装置やペースメーカーなどを操作します。

■各病棟での人工呼吸器業務

肺の機能が働かなくなり、呼吸が十分にできなくなった患者さんには呼吸を代行するための人工呼吸器という装置が装着されます。その際、臨床工学技士は人工呼吸器が稼働している場所へ行き、安全に装置が使用されているか、装置に異常がないかなどを確認します。また、人工呼吸器のメンテナンス・管理等も行っています。

■透析室や集中治療室での血液浄化業務

体内に貯まった老廃物などを排泄あるいは代謝する機能が働かなくなった場合に行う治療で、血液透析療法、血漿交換療法、血液吸着法など様々な血液浄化療法が存在します。臨床工学技士は人工透析装置の操作を行い、時には穿刺なども行います。

■病院内の医療機器管理業務

医療施設の様々な分野で使用される医療機器を、安全に使用できるように、そして機器の性能が維持できるように保守・点検を行います。また、医療機器を一括管理し、効率的で適切な運用ができるようにしています。

今後の目標

臨床工学技士の業務は幅広く多種多様です。しかし、病院の中でどのような業務に携わっているかはよく知られていません。臨床工学技士の業務をより多くの方に知っていただけるようスタッフ一同、頑張っていきたいと思っております。



心臓大血管手術の際、心臓と肺に代わる動きをする体外循環装置(人工心肺)を操作・管理しています。その装置の周辺には数十台もの医療機器が同時に使われています。



ダビンチ手術の際、看護師さんと一緒に各種装置の準備や動作確認を行っています。

(記：医療技術部 医療機器管理部門 瓦谷 義隆)

お知らせ

研修医・指導医紹介

書籍紹介

「なるほど！ そうだったのか！ 糖尿病教室Q&A」

糖尿病もしくは糖尿病が疑われる人は日本人の10人に1人、もはや他人ごとではない病気となりつつあります。誰もが“元気でいつまでも健康に過ごしたい”と願っていますが、糖尿病を患う方も同じです。糖尿病患者さんの健康寿命が短いことは既に明らかとされており、糖尿病にならない、あるいは糖尿病を悪くしない（合併症を進行させない）ことが健康長寿への第一歩といえます。当科では糖尿病を身近に感じ、興味を持っていただくために、日頃の診察でよくいただく質問をQ & A形式で『糖尿病教室』を刊行しました。イラストや写真を多く使い親しみやすく、初めて糖尿病と診断された方でも読みやすいものになっています。患者さん、家族の皆様をはじめ、健康意識の高いあなたにもこの本を手にとりいただき、糖尿病と上手にお付き合いしていく一助としてご活用いただけますことを切に願っております。



◆発行 金沢医科大学出版局
〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地
TEL: 076-218-8069 FAX: 076-286-0224
※大学売店やお近くの書店でもお買い求めいただけます。

◆発売 紀伊国屋書店
◆定価 1,500円
◆仕様 B5版 124頁
◆発行日 2017年6月1日

これを読めば
もう安心だ！

(記：内分泌・代謝科 新田 恭子)

麻疹の流行について

麻疹は、非常に感染力が強いウイルス性の流行性感染症です。かつてはわが国でも大流行していましたが、ワクチン接種がしっかりと行われるようになり国内での発病者は激減しました。2015年以後ではそのほとんどは海外で感染し国内で発症した方（輸入例）、あるいはその方からの感染と考えられています。石川県内でも今年4月に輸入例からの感染拡大が起きました。ワクチン接種により免疫を獲得しても、長らく麻疹ウイルスと接していないと、免疫力が次第に低下します。この場合、患者と無防備に接すると不完全な麻疹（修飾麻疹）を発症することがあります。典型的な麻疹の症状は、高熱、カタル症状（咳、鼻水、結膜充血）、全身の発疹、口腔内コプリック斑の出現などですが、修飾麻疹では、通常の感冒とほとんど変わらない症状のこともあります。また、修飾麻疹の診断は難しく、抗体検査や遺伝子検査などが必要となります。治療薬は無いため、予防のためにワクチン接種を2回必ず受けることが重要です。麻疹患者と接して発熱した場合など、麻疹が疑われる場合には、施設内での感染防止のため、事前に医療機関に連絡してから受診してください。

小学校入学準備に
2回目の麻疹・風疹ワクチンを！



(国立感染症研究所ホームページより)

(記：感染症科 教授 飯沼 由嗣)

研修医紹介



2年次初期臨床研修医
山本 圭祐 (やまもと けいすけ)
石川県出身

【医師を志したきっかけ】

私が医師という職業を意識するようになったきっかけは小学校3年生の時でした。休み時間に校舎内の階段を上ろうとした際、上階から踊り場へ同級生が転落する場面に遭遇しました。

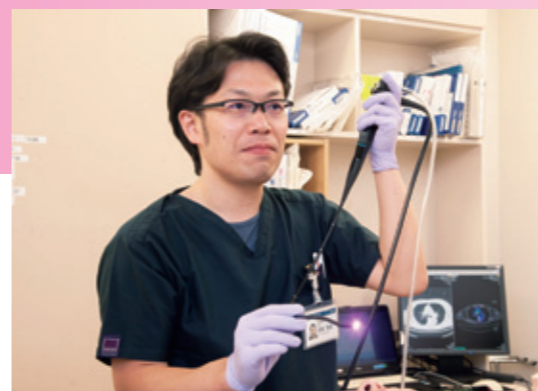
どうやら鬼ごっこをしていた下級生にぶつかり、突き飛ばされる形になったようでした。周りには私しかおらず、泣いている彼を背負って保健室へ行き、当時保健委員でもあったため保健室の先生と一緒に簡単な処置をしたことを覚えています。幸い、骨折等はなく打撲と擦過傷程度で済みましたが、彼からはとても感謝してもらえ、この事をきっかけに仲良くなることができました。

どのような職業も誰かの為になる仕事だとは思いますが、直接的に相手から感謝され喜んでいただけたところが医療職のやりがいを感じる場所だと思います。彼と同じように多くの人に喜んでもらえたらと思い、医師を志すに至りました。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

初期臨床研修というプログラム上、様々な診療科で研修をさせて頂くため数ヶ月単位で科が変わることになります。その変わり目に担当の患者さんから「先生に担当してもらってよかった。また診てほしいから一人前になってからもよろしくね。」と言われた時、この仕事を選んでよかったなと思いました。

指導医紹介



呼吸器内科
齋藤 雅俊 (さいとう まさとし)
山形県出身

【最近の研修医の指導について感じていること】

私が研修医の頃は、『研修医は、足で稼げ』という指導医の教えのもと、各科の先生や、部署へ直接教えてもらいにいき、時に怒られたりしながら指導されました。最近は、研修医にはできるだけ怒らず指導し、困ったことがあっても、指導医と相談

しプランを立てたり、指導医に言われたことをやる事が多く、大きな問題もなく診療ができています。反面、担当医として意見を述べたり、積極的に参加する意識が薄くなってしまっている印象を受けます。

【自分の研修医時代との違い】

私は2004年に臨床研修制度が始まった最初の研修医であったため、制度の認知も不十分でしたが、14年たって指導医の養成も進み、シミュレーションセンターなどの設備も充実して、研修するためのシステムが充実していると思います。また、時間外診療に関しても、基本的に当直医や拘束医（自宅待機医）に連絡がいくため、いつ電話がかかってくるかもしれないという状況が少なく、精神的にも肉体的にも負担が少なくなっているのではないのでしょうか。